

「未来を育てる知の拠点」を目指して

県立総合教育センター 所長 あおき たかお 青木 孝夫



現在各学校では、子供たちの実態に応じ、学習指導等の改善充実に取り組まれていることと思います。教育の課題はいつの時代もあります、共通することは豊かな心を持った人材を育成することではないでしょうか。今次学習指導要領に基づき、これからの時代を生きる子供たちを育てる教育課程を各学校で着実に実施していくことが求められています。

総合教育センター（以下、センター）としましては、全県の教職員の資質向上という重要な使命を果たすため、今年度も所員がチャレンジ精神をもって誠心誠意対応してまいります。また今年度、センターでは組織を再編し「教育DX担当」を新設しました。新たに教育のデジタル化推進に係る幅広い教育課題を先行して研究してまいります。また江南支所においては、豊かな自然環境や充実した施設設備を活用し、従来の農業教育だけでなく環境教育等新分野の研究にも取り組んでおります。今後もより一層、時代のニーズに応じた実効性のある事業を提供してまいりますので、御期待ください。

「センター運営コンセプト」リニューアル

授業等でのICT活用など、学びそのものが急激に変化・多様化する時代の流れに応じ、今年度運営コンセプトを一新しました（表紙見返し参照）。センターの目指すミッションを「未来を育てる知の拠点」に、ビジョンを「学び続ける教職員・学校の教育力向上を図る」としました。また、センターの3大事業の位置付けも見直しました。研究・開発事業は、昭和23年の開設以来センターの生命線ですので筆頭格とし、研究の質を一層高め研修及び教育相談事業に波及させてまいります。

今後もセンターは、学校改善の「知」を集約し、時代を超えて変わらない価値に加え、変えていく必要のあるものを、常に研究・開発（政策形成）し、教職員と学校の成長ストーリーを力強く支援してまいります。

各研修の一層の充実を図る取組

センターでは今年度、各年次研修の他専門研修33本、特定研修19本などを実施してまいります。

今年度から全ての研修で「埼玉県教員等の資質向上に関する指標」（以下、「指標」）に基づき、自身のステージを項目毎に確認し、研修を通じ積み上げを図ることで教職員の「キャリア開発」に努めてまいります。「研修案内」も「指標」に照らし、概要をより見易く

しました。またマネジメント力を強化するため、管理職対象の「危機管理研修」や「ICT研修」等を新設しました。さらには、近年増加傾向にある「要請研修」にも積極的に応えてまいりますので、是非御活用ください。所員は専門性の高さで校内研修会を通じ各学校の教育課程に沿った教育活動を支援してまいります。

外部専門機関との学びのネットワークの充実

センターでは国内の優れた大学・研究機関44か所とネットワーク巡らせ、学びのレベルアップを図っています。中でも、官民連携プラットフォーム事業「次世代の学び創造プロジェクト（通称『まなプロ』）」を令和元年度より実施し、企業等とWin-Winの関係を築き先導的な研究を推進しています。今年度はインターネットゲーム障害の予防・早期発見のための研修・教材開発やドローン人材育成プロジェクト等多方面にわたる分野の取組を更に充実させ、学校課題に効果的な手立てを発信してまいります。また本年1月より、国際協力機構（JICA東京）から国際協力推進員として職員1名が派遣され、SDGsを取り入れた授業づくりや研修プログラムの開発などに取り組んでいます。センターにあるJICAブースの利用を含め、是非御活用ください。さらに、東京学芸大学との教科探究型授業モデル・教科横断型探究プログラムの開発普及や国立女性教育会館（NWEC）とのキャリアアップに向けた取組等も始めてまいります。グローバル化と多様性の時代にあって教育の果たす役割は大きく重いものがあり、一機関だけで課題を解決することが難しい状況となっています。今後も多くの教育研究機関と連携し、埼玉教育の充実発展に努めてまいります。

「埼玉教育」で教育実践の一層の充実を

本誌「埼玉教育」は、昭和23年度に発行し、今年度で74周年を迎えました。「埼玉教育」は県内の教職員の優れた実践やすぐに役立つ教育活動を数多く掲載する「教職員のための教育情報誌」として、日々の教育実践の糧にいただければと思います。

センターでは「未来を育てる知の拠点」を目指し、今後も学校や市町村教育委員会への更なる支援に日々鋭意努力してまいりますので、皆様の一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。